



エクセラン高等学校			
〒390-0221 長野県松本市里山辺4202 ☎0263-32-3701			
活動団体	環境科学コース		
主な活動時間	授業の一環として、休み時間や放課後	活動人数	34人
最終審査会発表生徒	阿南 智也(3年)	担当教諭	竹内 久代

ぷらすαの河川・里山整備とあまのじゃく的エコ活動

【目標・今後の計画】

今まで8年間、地域の河川・里山環境や生活環境から問題を見出し、外来種の駆除活動などを地域と連携して行ってきた。この活動を継続していくことはもちろんであるが、社会的な風潮や「エコ」「省エネ」とい言葉に流されるのではなく、一度基本に立ち返ることさらに持続的な地球環境を保全していく活動を始めた。この活動は、「あまのじゃくのエコ活動」「ぷらすαエコ活動」と名付けた。

あまのじゃくのエコ活動…「エコバッグ」「エコキャップ」「太陽光発電」「トイレの節水」など環境にやさしいとされているものに関して、LCA (Life Cycle

Assessment)や立場・視点の違いから検討。課題を洗い出し、何を選択するのかを考え、環境新聞を制作して配布している。

ぷらすαエコ活動…今までの保全活動について、CO₂削減の視点を加えた活動にしていく。例えば河原固有種のカワラナデシコを増やす活動に対して、苗ポットを生分解性プラスチックにしてプラスチックポットについての問題提起をしたり、竹林では竹利用(竹箸・竹炭・竹チップなど)を具体的に実践しつつある。今後はさらに地域に広げていく。

【活動内容】

- ・植生調査と特定外来種(アレチウリ・オオキンケイギク)の駆除
 - クズの駆除
 - ⇒+αクズ蔓の利用
 - クイモの駆除
 - ⇒+α味噌漬け活用
- ・河原固有在来種(カワラナデシコ)の苗づくり、定植(繁殖)、苗配布
 - ⇒生分解性プラスチックポットの使用開始
- ・センサーなどでの野生動物の調査→駆除動物(鹿)肉や皮の利用相談(企業：山崎商店)
- ・松枯れ調査→被害木の利用を安曇野市耕地林務課、明北小学校と相談、ペン立てなどとして利用
- ・竹林の調査、整備(NPO寿さとやまクラブ)
 - ⇒竹箸、竹チップ、糠床・土壌改良・消臭用の竹パウダーとして利用、竹炭の利用を検討
- ・身近なものから見える環境問題(地域の方とのエコスクールでも実施)
 - ⇒例えば、コーヒーから見えた環境問題として、コーヒーかすを利用(乾燥させて消臭剤や除草剤として

レジ袋の環境優良性？(1人あたり)

レジ袋	高密度PE LLサイズ	295幅×530高×0.017厚 重量: 7.0g	CO ₂ 排出係数: 1.169 (CO ₂ kg/kg)
エコバッグ	ナイロン66	490幅×130奥×420高 重量: 175g	CO ₂ 排出係数: 3.394 (CO ₂ kg/kg)

マイバッグを持っていることが「エコ」なのではなく

1つのマイバッグを使い続けることが大切

1袋あたり、エコバッグはレジ袋の約72倍のCO₂を排出する

1週間に2回買い物をするとして、エコバッグはレジ袋の36週分(約0.7年分)に相当

ぷらすα作戦 その1 カワラナデシコ苗を育てて増やす + 配布 + ポットを生分解性プラスチックで

生分解プラスチックポットへの
植え替えの様子



配布)したり、フェアトレードやレインフォレストアライアンス商品を文化祭で販売(他コースで)。



トイレから見えた環境問題として、学内でのトイレトーパー節約や節水への呼びかけを実施。



学校内で「環境新聞」の発行開始

- ・学内行事との連携(クリーン大作戦・文化祭・建学の時間など)
- ・年4回のエコスクールの実施(地域の方や学校保護者の方の参加)
- ・出前講座の実施(地元小学校)
- ・地域の環境フェアへの参加で環境問題や保全活動とのつながりを伝えていく(ワークショップ)
- ・パンフレットの作成と配布(平成27年度の新しい大きな活動)→薄川をきれいにする会総会参加

【成果・実績】

連携機関の広がり…特定外来種の駆除活動は、これまで学校の学習の一環として細々と行ってきたが、学校全体(学校行事として)や地域、新聞社、行政に呼びかけ、連携の輪が広がってきた。地域の方の参加は

10名程度だったが、散歩ついでに駆除に加わってくださった方もいた。

里山活動については、NPO法人(寿きとやまクラブ)、長野県環境保全課、野生動物の肉利用は山崎商店、安曇野市耕地林務課の方など多くの団体と連携し、野生動物の専門家(信州大学農学部)や行政のアドバイザーが協力してくださるようになった。

アレチウリに関しては駆除の効果があまり見られないが、オオキンケイギクに関しては駆除活動を続けてきたことが分布域を狭くし、草花の勢いを弱めている実感がある。

活動を継続するなかで認知が高まり、活動中に声をかけてもらったり毎年参加している講座やフェアからは継続の声をかけてもらったり、今年は初めて地域の河川をきれいにする総会に呼ばれた。



●活動にあたり創意工夫したこと

駆除と固有種カワラナデシコを増やす活動の両輪でバランスよく保全することを考えた。増やす活動でも技術を必要としない苗づくりを行ってきた。さらに今年は生分解性プラスチックの利用を加えた。

また、活動が「利用」へとつながるように工夫した。例えばクズの駆除をクリスマスリース利用につなげ、竹林の整備も竹箒などへの利用も併せて実施するようにした。またワークショップでもこの関連性を大切に説明した。

●活動の際に苦労したこと

野外での活動が多く、夏の活動では時間の確保が困難であった。

自分とは違う考え方を受け入れ、全体をまとめることが難しい。リーダーの育成が課題である。また、まわりの人の意識を持続させることも難しいと感じた。

活動の環^わを広げよう 出場者からの提言

◎高校生活の中で行ってきた環境保全活動は、これからの自分の生活を見直すきっかけになり、実体験からの知識や仲間との協力の大切さを学ぶ場になりました。全国に、そして世界に同じ思いの仲間がいて、つながっている事に気が付きました。感謝！
(阿南 智也・男・3年)